

Close Up クローズアップ 交通教育センター

鈴鹿サーキット開場 60 周年を記念した 春の特別スクールを開催

今年、鈴鹿サーキットは開場 60 周年を迎えた。これを記念して、鈴鹿サーキット交通教育センターではゴールデンウィークに「Honda モーターサイクリストスクール※1（以下、HMS）」と「親子でバイクを楽しむ会※2（以下、親子バイク）」の特別企画を開催。どちらも、鈴鹿サーキットのレーシングコースを活用したプログラムとなっている。

※1 個人のお客様に楽しくバイクの安全運転を身につけていただくことを目的としたスクール。お客様のスキルやニーズに合わせて、様々なコースが用意されている。

※2 バイクに乗る体験を通じて親子の絆を深めてもらうことを目的としたスクール。保護者が先生となり、バイクの操作方法や楽しさだけでなく、ルールやマナーの大切さを子どもに伝える。

グループでのツーリングを 想定したトレーニング

HMS は、通常 1 日開催の「ツーリングライド」を思う存分ライディングが楽しめるよう「ロングツーリングスペシャル」として 5 月 1 日と 2 日の 2 日間にわたって実施した。

1 日目は 13 時からの開始。あいにくの雨となったが 17 名のライダーが集まった。冒頭のオリエンテーションでは、インストラクターが「今回は 1 泊するツーリングに出かけるという設定です。ベテランの方、経験の浅い方が混在するグループで走行する際に適した走行位置（順番）の決め方、情報伝達の方法などをお伝えしていきたい」と説明。HMS への参加が初めてという受講者もいることから、トレーニングに入る前に車両点検（日常点検）の主な項目、運転姿勢の基本についてインストラクターが丁寧に解説した。

慣熟走行が終わると、ブレーキングの練習となる。この後は、パイロンスラロームと U ターン。U ターンはツーリングの際に必要な場面があるが、苦手な人も多い。まず両足をつけて行き、次に片足だけつけたまま。そして、両足をステップに置いた状態での U ターンへ移行してもらう。

1 日目の最後はロングツーリングの応用走行。受講者が 2 つのグループに分かれ、ツーリングでの集団走行を想定したトレーニングとなる。グループごとに話し合っ、各々の走行位置を決めていく。

「グループでツーリングする際は走る順番が重要です。特に、先導者（先頭）と最後尾は運転経験の長い方が適任です。リーダー役の先導者は私たちが務めます。サブリーダー役の最後尾は、皆さんの中で長くバイクに乗られている方が担当してください。リーダーの後の 2 番目もベテラン、その後方に初心者をお配置するようにお願いします」とインストラクターがアドバイスした。

多人数でのツーリングでは、バイクが車線内で 2 列になり、互い違いに並ぶ千鳥走行（右上図参照）という隊列を組むことがある。これにより隊列の長さを 1 列に並んだ時よりも短くできるなどのメリットがある。ただし、センターラインのない道路や片側一車線の道路では 1 列に戻らなければならない。応用走行では、交通教育センター内のコースで、スムーズに隊列を変更する練習を行った。リーダーの上げた手の指が 2 本なら 1 列から千鳥走行へ。指が 1 本なら千

鳥走行から 1 列になるというルール。リーダーから合図が出たら、後ろの受講者も同じようにハンドサインで後続に伝達していく。

快晴となった 2 日目は、朝 7 時から前日に決めた配置でレーシングコースを走行。メインストレートなど長い直線区間で、インストラクターの合図で隊列を変更するという練習を行った。周回するだけでなく、コース上の数カ所でバイクを止め、受講者が記念撮影できる時間も設けられた。朝食をはさみ、昼までコーススラローム。小回りのコーナーを組み合わせたコースで、アクセルやブレーキのより正確な操作を練習し、2 日間の HMS は終了となった。

コロナ禍で受講を控えていたため、久しぶりに兵庫県から鈴鹿に来たという夫婦は「動画を視聴して学ぶこともありましたが、実車に乗って学ぶことが一番効果的だと感じました。今日は練習するだけでなく、レーシングコースを走る特別な体験もあり、とても満足です」と話す。HMS を初めて受講したという愛媛県の男性は「最近、再びバイクに乗るようになったので申し込みました。2 日にわたって練習できたので、以前乗っていた時の感覚を思い出せた気がします。ここで身につけたことを忘れずに、ツーリングを楽しんでいきたい」と感想を語った。

親子で鈴鹿サーキットの レーシングコースを体験走行

5 月 1 日に開催された親子バイク「親子でレーシングコースチャレンジスペシャル」には 10 組の親子が参加。親子でバイクを点検し、慣熟走行とブレーキングの練習をした後、レーシングコースの走行に向けたブリーフィングとなった。「最初はお父さん、お母さんがお子さんの前を走ってください。コーナーの手前ではブレーキランプを点灯させて、減速するポイントをお子さんに教えてあげましょう。上りや下りでは、必要に応じてギアチェンジをお願いします」とインストラクターが注意事項を伝えた。そして、インストラクターの先導でレーシングコースを周回。HMS 同様、コース上にバイクを止め、親子で記念撮影できる時間が設けられた。最後は交通教育センターに戻ってパイロンスラローム。お父さん、お母さんが後方から子どもの運転を観察し、スムーズに旋回するためのアドバイスを行った。

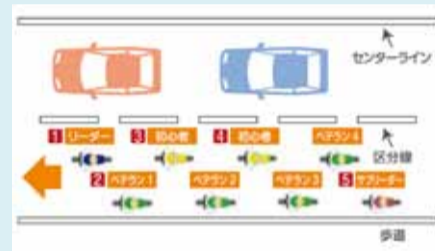
ゴールデンウィークを利用して大阪府から訪れた 4 人家族は 2 組で受講。お父さんとお母さんは「将来、家族でツーリングに行きたいという夢があって一昨年から受講しています。毎回来るたびに子どもたちの成長を実感できることが親子バイクの魅力です。今回はレーシングコースを 4 人そろって走ることができて感動しています」、息子

さんたちは「パイロンスラロームをじっくり練習でき、運転が上達したように感じました」「普段走れないコースを自分が運転するバイクで走れて楽しかったです」と、笑顔で交通教育センターを後にした。「親子でレーシングコースチャレンジスペシャル」は夏休み期間（8 月 12 日、13 日、14 日）にも開催が予定されている。

HMS ツーリングライド 「ロングツーリングスペシャル」



パイロンスラロームと U ターンに取り組む受講者



千鳥走行の例



応用走行ではインストラクターの合図で隊列を変更する練習を行った



メインストレートなど長い直線区間を使って、1 列から千鳥走行になり、再び 1 列に戻るという前日の応用走行を実践



レーシングコースを走行する受講者。途中、コース上にバイクを止め、思い思いに写真を撮影した

親子バイク 「親子でレーシングコースチャレンジスペシャル」



お父さん、お母さんが子どもの運転の様子を見て改善点を伝える



雨で路面が濡れていたが、親子でレーシングコースのツーリング走行を楽しんだ